

りんごだより

草笛学園 2024年 (12・1月)



あっという間に月日がたち、今年も残すところあと一か月となりました。朝晩は冷え込むようになり、いよいよ冬の到来です。子どもたちにとってはクリスマスやお正月、楽しみがいっぱいですね。体調を崩さず、元気に過ごせたらよいですね。

この季節はファンヒーター、ポット、加湿器、こたつ、カイロ、ホットカーペットなどを使用することが多くなります。やけどはもちろんのこと、低温やけどにも注意しましょう。長時間同じ体勢でホットカーペットやこたつに当たっていると低温やけどになる危険性があります。ホットカーペットやこたつで寝てしまうことがないよう気をつけましょうね。

「おいしいねえ」と言える形容詞の世界

「おいしいねえ」、「きれいなお花だね」、「冷たいお水、気持ちいいねえ」など、3歳になりゆく子どもたちのなかに、形容詞の心地好い響きを感じるようになります。ことばが出はじめた1歳児でも、花を指さして「きれい、きれい」と言うかもしれませんが、本当に、心を込めて「きれい」と言えるようになるのは、やはり3歳になってからです。

ときどき、保育所の先生から5歳、6歳になって、特定の事物の名称はいっぱい覚えるのに、経験や感情をことばにすることが少ない子どもたちのことを相談されることがあります。そんな子どもたちのことばに、形容詞の世界がみられにくいことがあります。それは、なぜでしょうか。

「おいしい」、「きれい」などの形容詞は、その食べものの味を感じ、その花の美しさを感じる感情とともに獲得されていくことばです。そして、このような感情は、子ども一人ではつくることのできない力です。おいしいごはんを食べた時に、「おいしいねえ」と言い合える人、きれいな花を見たときに、「きれいだねえ」と言い合える人、そんな関係があつてこそ、作りだされていくことばの世界です。共感とは、あまり感興のないことばですが、しかし文字通りの「共に感じる」という意味は、子どもの発達にとっては価値のある響きを持っています。常に子どもと同じ視線の高さで、子どもの心のなかに入って世界をながめていると、子どもが感じているで

あろうことが、自然と大人の口をついて出てきます。そして、そのことばによって、子どもは自分の心のなかの感情を表す言葉を知っていくのです。

～中略～

子どもたちの生活を見ていると、食事ではまず偏食やマナーの指導があつたりします。それもたいせつかもしれませんが、しかし、それだけの生活になるなら、子どもの心のなかに、「おいしいねえ」と言い合える感情はつくられていくのでしょうか。まず、人としての心が育つ、そんな生活を私は、この子らのために願っています。

『発達の扉 上』白石 正久 著



次回のりんご教室は…

- 1月 りんご教室①…1月はありません
りんご教室②…1月21日(火) 9:20～11:15
→**ふるーつばすけっと**を行います
- 2月 りんご教室①…2月 4日(火) 9:20～11:15
→**ふるーつばすけっと**を行います
りんご教室②…2月18日(火) 9:20～11:15
→**ふるーつばすけっと**を行います

◎持って来るもの：水筒・シューズ・必要に応じて着替え

※保護者の方も動きやすい服装でお願いします♪

『参加される皆様へ』～ご協力をお願いします～

- お休みされる場合は、学園までご連絡下さい
- 参加費はおやつ代の100円です。製作やクッキングの活動の時には材料費として追加で100円いただきます。その都度連絡いたします
- 活動は主に、草笛学園遊戯室での活動となります
- 水分補給のため、お茶を用意して下さい(ジュース類は控えて下さい)
- きょうだい児の参加はご遠慮下さい。預け先がない場合は事前に職員までご相談下さい
- トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきて下さい